

B 建物の概要

表9 建物の概要

構造	木造 平屋建	
寸法	桁行5間半×梁行4間半	
間取り	8畳(2)、6畳(1)、3畳(3)	注：カッコ内は部屋数
屋根	切妻、棧瓦葺き	
外壁	板壁	
建具	引戸	
整備年	昭和46(1971)年	
所有	市	

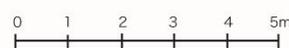
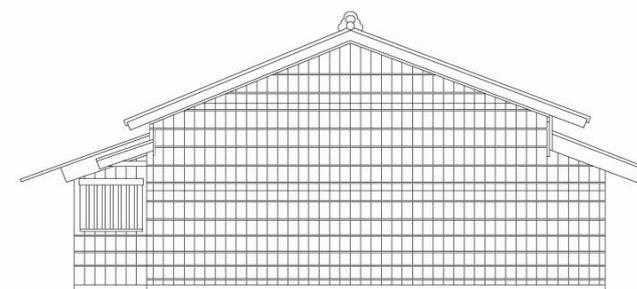
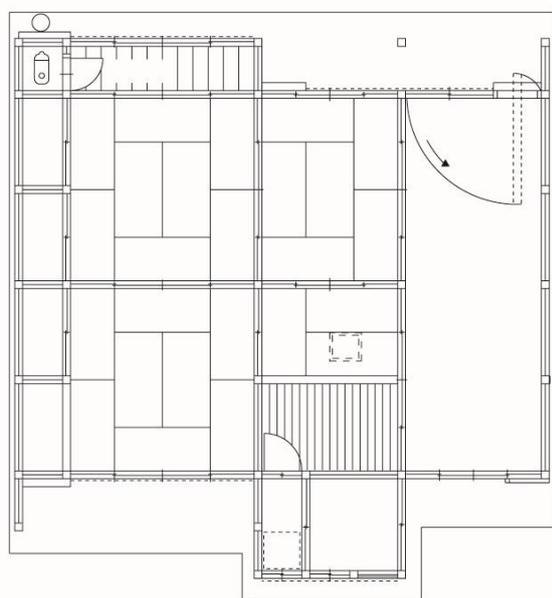


図20 仲間の宿平面・立面図

C 保存整備計画

平成10(1998)年に建物の裏庭を発掘調査し、建物跡を示す石列や廃棄物を埋めた土坑を検出した。現在は盛土によって遺構が保護されている。

建物の構造や川越しにおける機能を展示紹介するとともに、川越しの集落の暮らしを紹介するため、権蔵わらじ作りが体験できる施設として整備を行う。このほか大井川輦台越保存会の活動拠点としても活用する。そのため耐震診断を行い、地震による損傷を軽減するとともに見学者等の安全確保のための耐震補強工事を順次実施する。



仲間の宿

(オ) 三番宿

A 建物の沿革

番宿とは、川越人足の溜り場で、川越人足は一番から十番までの組に分かれ、各番宿で待機していた。現在は三番宿、十番宿を公開している。

三番宿は、昭和48(1973)年に復元整備され、正面、側面は当時の雰囲気を残す一方、裏は土間奥に風呂場、トイレが増築されている。かつての所有者が保管していた明治28(1895)年の登記書類の写しでは、間口・奥行とも6間3尺の居宅のほか、厠・物置など3棟が記されており、現在の造作とは大きく異なっている。かつての所有者の話では、家の造作はもともと西側に1間半ほど続いていたが、土地の売買により現在の形になったとのことで、地籍図の分筆状況とも一致している。

B 建物の概要

表10 建物の概要

構造	木造 平屋建
寸法	梁行6間半×桁行5間半
間取り	8畳(2)、6畳(4) 注：カッコ内は部屋数
屋根	切妻、棧瓦葺き（前面軒銅板葺き）
外壁	板壁
建具	引戸、 ^{しとみど} 藪戸
整備年	昭和48(1973)年
所有	市

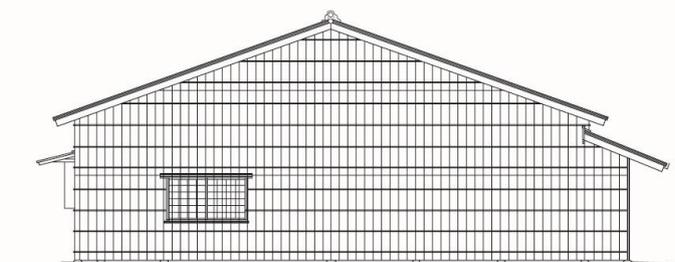
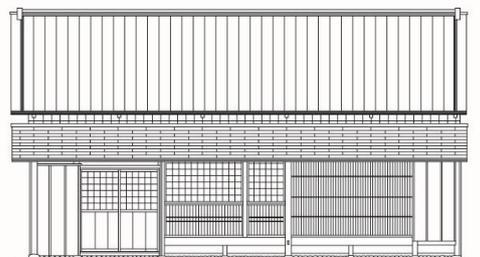
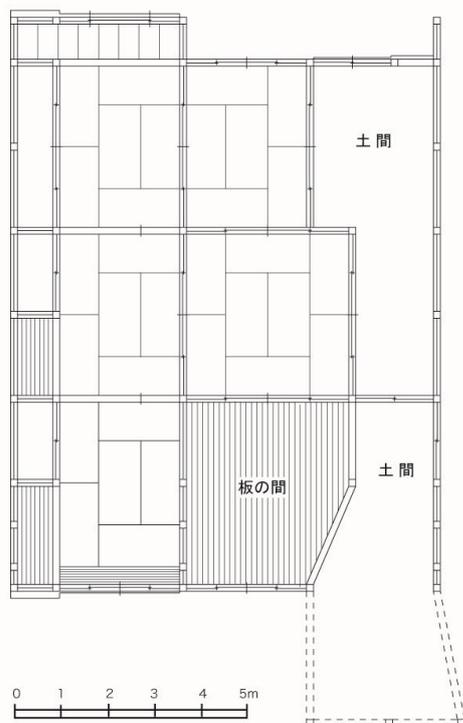


図21 三番宿平面・立面図

C 保存整備計画

建物の地下および裏庭についての発掘調査は未実施で遺構の残存状況は不明であるが、引き続き現状を維持する。

三番宿については建物の構造や川越しにおける番宿の機能を展示紹介するとともに、川越しの集落の暮らしを紹介する施設として整備を行う。さらに、耐震診断を行い、地震による損壊の軽減と見学者等の安全確保のための耐震補強工事を順次実施する。



三番宿

(カ) 十番宿

A 建物の沿革

十番宿の建物の建築年代は明確でないが、屋根の形状等から明治中期以降のものと考えられる。昭和57(1982)年に復元整備が行われて現在に至っている。北側に延びた屋根の軒下に玄関から延びる土間が、L字に曲がって裏口に通じている。土間奥の勝手部分の窓は無双窓となっている。

かつての所有者の先祖はもともと金谷の出身で江戸時代に現在の地に移住して農業を営み、昼間は住居を番宿として貸していたという。

B 建物の概要

表11 建物の概要

構造	木造 平屋建
寸法	桁行4間4×梁行間半
間取り	6畳(2) 板間6畳(1) 注：カッコ内は部屋数
屋根	切妻、棧瓦葺き（前面軒銅板葺き）
外壁	板壁
建具	引戸、 ^{しとみど} 蔀戸
整備年	昭和57(1982)年
所有	市

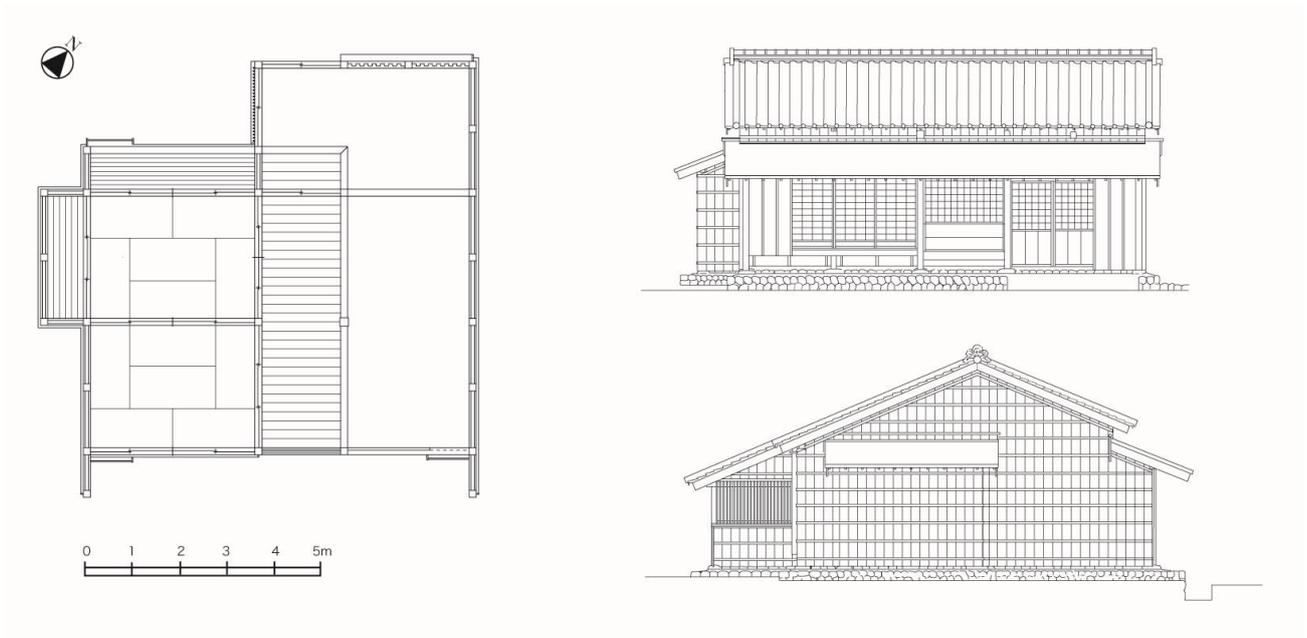


図 22 十番宿平面・立面図

C 保存整備計画

建物の地下遺構については不明であるが、建物の裏庭には昔の納屋もしくは厩の礎石の一部が露出しており、遺構が埋蔵されている可能性がある。現状を維持しつつ、必要に応じて盛土による保護を行う。

建物内部は川越しにおける機能や建物の構造を展示紹介するとともに、川越場の暮らしを紹介するため、川越人足が待機していた詰所の概要等を体験できる施設として整備を行う。また、耐震診断を行い、地震による損壊の軽減と見学者等の安全確保のための耐震補強工事を順次実施する。



十番宿

②保護対象範囲ゾーン

旧桜井家住宅（博物館分館）

A 建物の沿革

桜井家は江戸時代から代々この地に住む旧家で、江戸時代は造り酒屋も営んでいた。現在ある旧桜井家住宅は、金融業を営む大地主であった桜井正蔵家の住宅で明治33（1900）年の建築である。玄関東側にはかつて女中部屋として使った座敷があり、その奥の土間にはカマドが残っている。通り庭を挟んで反対側は住居スペースで1階は11部屋、2階は2部屋ある。装飾などは少ないものの豪壮なつくりで、一部には数奇屋風の造りも見られる。また建物と街道の間には小川が流れる日本庭園もあり、生い茂る樹木は川越遺跡の景観木にもなっている。平成12年に島田市が購入し、博物館分館の一部として公開されている。

B 建物の概要

表12 建物の概要

構造	木造 2階建
寸法	桁行12間半×梁行9間
間取り	1階12.5畳(1)、10畳(1)、8畳(2)、6畳(5)、4.5畳(2)、3畳(1) 2階6畳(1)、8畳(2) 注：カッコ内は部屋数
屋根	寄棟、棧瓦葺き
外壁	板壁
建具	ガラス戸
整備年	平成11(1999)年
所有	市

C 保存整備計画

江戸時代に酒造業を営んでいた当時の遺構は残っておらず、海野光弘版画記念館の裏に井戸が残っており現在も使用されている。引き続き現状を維持していく。



旧桜井家住宅（島田市博物館分館）

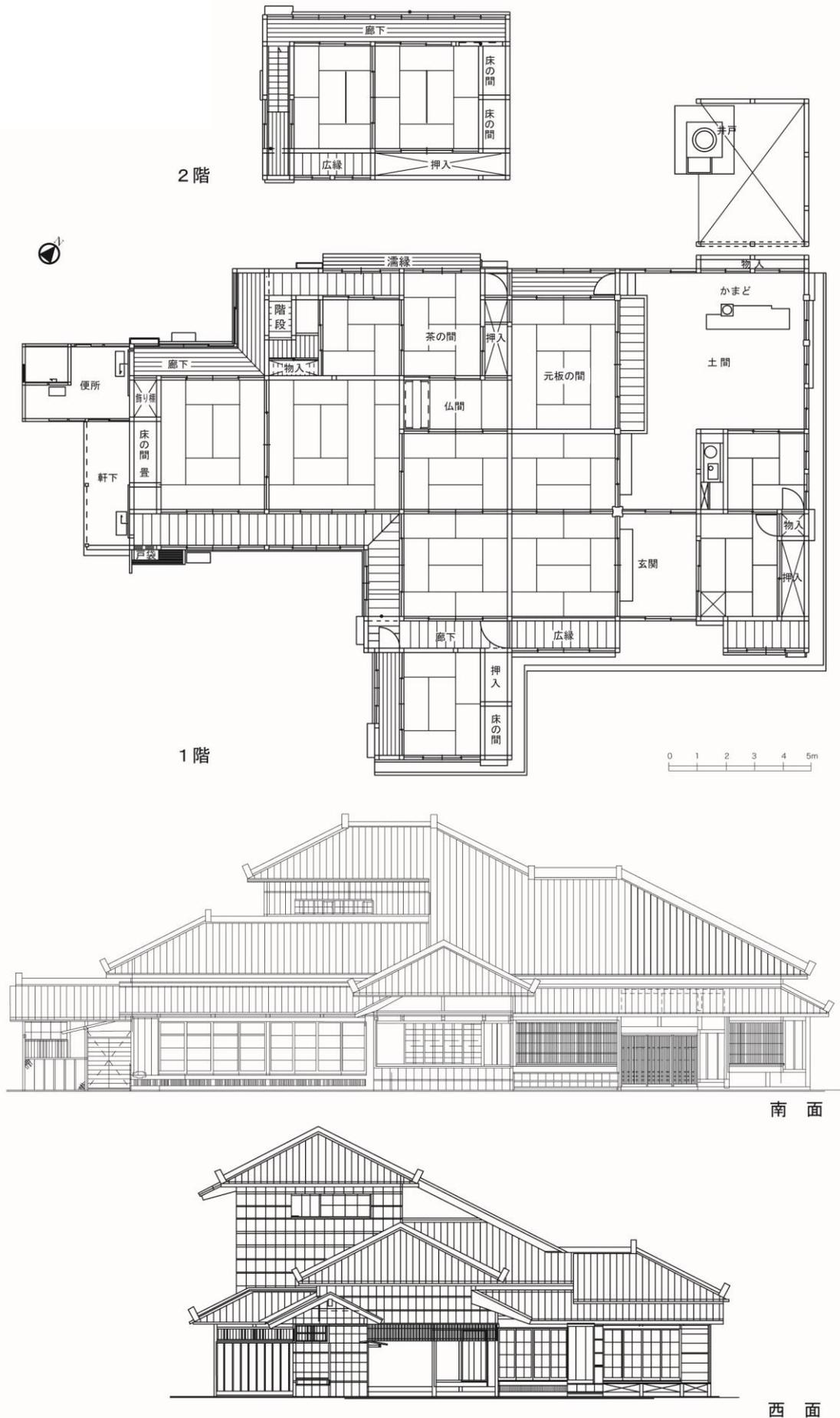


図 23 旧桜井家住宅（島田市博物館分館）平面・立面図